

学生の声

学芸員とは「モノをして人に伝える」専門家 そこにはさまざまな可能性が秘められています

大銚地 駿佑

日本史学専攻 4年 岩手県立盛岡第三高等学校 出身

学芸員資格を取得し、卒業後は大学で学んだ日本史学の知見を直接活かすことのできる分野へ進みたいと考えています。文学部の学芸員課程において特徴的なのは、古文書などの文献資料のみならず土器や石器などの物質的資料(考古学的資料)の取り扱いについても学べるため、学芸員資格をめざす者として歴史学と考古学の2つの視点を持つことができる点です。学芸員課程の授業で、ある先生は、博物館とは「モノをしてヒトに伝える場」と

述べられました。それは言い換えれば、学芸員とは「モノをしてヒトに伝える職」ということであり、そこにはさまざまな可能性が秘められていると考えます。その可能性を引き出し、モノをしてヒトに伝えるために、中央大学文学部の学芸員課程では、実践的なことを含めじつに多様な学びと視点を得ることができます。ここで得た学びと視点は、私たちにとって非常に有意義なものであり、将来の選択肢を増やす上でも大いに役立つことでしょう。

